

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	株式会社アイリーフ		
事業所名	グループホーム アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 17 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な活動を通じて他者から頼られ、自分らしい生活を続けられる場の提供を目指しています。また、看取りまで対応できる事業所として、安心して過ごせる場所が最期を迎えられる場所であるよう、かかりつけ医、訪問看護師と連携を図っています。これまで通りのやり方を疑う目を持ち、より良い関わり方はないか日々模索し、入居者、家族、スタッフ間でコミュニケーションを取りながら、支援しています。LINE公式アカウントを開設し、日々の様子の配信やオンライン面会に対応しています。外国人技能実習生を受け入れ、人間的に余裕をもって落ち着いたケアが実践できるように配慮しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105235-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の小さな花びらが寄り添い、利用者の笑顔と重なり合って大輪の花を咲かせている。体調不良が起こった利用者に対して、家族との交りが深くなるようSNSを活用して、知らせ、知らないことを知ることから健康状態保持をし、心身ともに満足できる体制を築いている。お誕生日にご自宅までのドライブを計画したこともあり、ご自宅の近くのお寺に手を合わせに行ったら、ご住職が利用者を覚えていて昔話に花を添えた。外食を企画して、お寿司を食べて施設の垣根を越えて喜んで頂いたなど、職員が利用者にな得できる企画を豊富に打ち出している。日々の仕事でも、キャッキョッと笑う職員が多く、施設も明るく和んでいて、時に職員も気分的にへこたると時、ワイワイと愉しく仕事をするに徹し、職員間でカバーし合いながら盛り上げている。管理者も常に笑顔を引き出し、愉しく安全な職場を目指している。地域に対しても早くコロナ禍を脱皮したいという思いから、家族会やぜんざいを振舞う場を設けた。たまたま通りすがりの方が、ふらふらと寄ったことも活気に繋がった。花見の時に利用者の手には花びらを飾したら「大事なお花だから」とハンケチに大切に包み込んで、持ち帰ったこともあった。地域のごみ拾いやイキイキサロンの参加、公民館の活用、スーパー、ドライブスルーなどなどの企画力もたっぷり。そんな職員自身がやりたいことを楽しみながら、家族と利用者を巻き込んでいる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念や事業所理念をホールの見えるところに掲示している 家として終の住居として温かく暮らせるよう工夫している	理念は事務所とホールに掲示していて、和気藹々とした家族のような関係が築けるように意識するだけでなく、地域における自分たちの在り方を理念に照らし合わせて、ケアに臨んでいる。クレドカードを作り職員の行動指針の提示もしている。	理念を更にわかりやすく掲示する工夫をしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の流行により機会は減ったが、地域の方に出会えばしっかりとあいさつし交流している 地域の方と少しでも交流がとれるよう行事なども工夫している	町内会には加入している。近隣の畑で採れた野菜を頂いたり、公園で少年野球のバーベキューに参加したりしたこともある。散歩の時には、ゴミ拾いをして、地域美化に協力している。コロナ前には、いきいきサロンにも参加していた。	地域の方との交流をさらに深めてほしいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症流行により運営推進会議を対面で行うことが出来ていないが、書面での情報発信や介護相談を受けることが出来るよう発信している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回書面会議にて施設状況の報告を行っている 報告書と共に意見ができるアンケート用紙を同封し、その意見を共有し向上に努めている	現在は書面にて開催し、推進会議のメンバーには郵送で渡している。公式ラインを導入したことで、会議に参加できなかった方へも情報提供ができるようになり、全員が把握できるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回書面会議にて施設状況の報告をお粉っている また事故報告書の送付も行っている 感染症管理についてもご指導いただいている	管理者が窓口となっている。直接、顔を合わせる関係が継続できている。電話でやり取りを行う場合もあり、頂いた情報は日々の介護に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しケアに反映できるよう分からないことはリーダー・管理者に相談しケアに当たっている また定期的・または緊急時にその都度話し合いを行っている 玄関も夜間22時から早出勤務者が来る前まで以外は解放している	身体拘束はしておらず、委員会は3ヶ月に1回開催している。ケアカンファレンスや申し送りの際に、一人ひとりの成功事例を報告する場を設けていて、共有実践することで(グットプラクティス)ケアの見直しに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について内部研修を行い理解を深め、現場でもその都度職員間で声掛けを行い、不適切ケアの防止にも努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常業務での必要性が低いため、理解できていない職員もいる。事例などを用いて周知する方法を検討する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアの指針などを説明・話し合いをし理解に努めている。また、日頃からSNSなどを活用し情報の共有や意見交換、疑問や不安なことなどの相談、話し合いに努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のアンケートやSNSの活用により、定期的にご家族様と情報共有や意見交換、関係を築けるように取り組んでいる。	ヒヤリハットの報告をしていたが、対処の具体例を示して欲しいとの意見を頂いた。職員が利用者のいないと思うものを家族に返却しようとした際に、家族から、「これは昔、大切にしていた物だから」と言われ戻されたことがあった。公式ラインを活用することで、より意見を聴取しやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスや合同カンファレンスにて意見・要望を伝え意見交換を行っている。また日常の相談・提案も日常的に行っている。	体調の不安や新しいシフトの時に、管理者は職員に声をかけるように配慮している。職員が自らやりたいことに取り組むという意識が高く、意見が頻繁に出て、実践できる環境となっている。利用者の靴が滑りやすいことに気付いた職員が、新しい靴に買い替えたこともある。スライディングボードを導入したことで、職員の腰痛対策となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じた手当を支給している。残業など偏った勤務体制にならないよう、また職員の体調に応じた勤務体制になるようシフト調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修について定期的実施している。希望する研修などの意見の集約も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の為行えていない		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が表現できることしっかり聞きし、その方に合ったコミュニケーションを取りながら、困っていること、希望していることなどに耳を傾けながら新しい環境になじめるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やSNSを活用しご家族様のご要望やふあんなことについてもしっかりと寄り添い傾聴し良好な関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とされている支援が具体的にお伝えしていただけるようしっかりと関わり、できること出来ないことを伝えている。必要であれば外部のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることの発見に努め、出来ることはしていただくよう支援している。また何もできないと感じておられる方も、その存在が家族の形成にとってかけがえのないものと認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の施設での状況を提供し、ご家族様との信頼関係の構築に努め、ご本人様が今必要とされてい得ること、困っているだろう事を日々把握し、ご家族様にも連絡・相談し共に考え、共に支えるようしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	日々の関りの中からの情報やご家族様からの情報提供を元になじみの場所に外出したり、携帯電話を使用してご家族様と話ができるように支援している。	リビングの席が馴染みとなり、利用者同士が話に花を咲かせている。家族とは、感染予防をした上で、会うことが出来ている。昔馴染みの方とも会うことができ、昔を思い出しながら会話を楽しむ様子がみられた。家族と選挙の投票に行く方もいて、かかりつけ医の訪問を楽しみにしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所や食事の席にも配慮し、ご利用者様同士が良好に関われるよう、また個々のペースに合わせて過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご連絡いただけることもあり、その際には良好な関係が少しでも続くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中でその人の思いや希望を聞き、休息希望や空腹の訴え等々、希望がある時には可能な限り対応し、利用者本位のケアを心がけている。	音楽が好きな方へは、好きな歌手の曲やDVDを流し、鼻歌を歌っている。口腔ケアが好きな方には、心ゆくまで掃除をして頂くこともある。家族から歩かせてほしいとの要望があり、実践している。出た意見は、介護記録を通して、情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの記載の把握やご本人やご家族様からの聞き取りから、これまでの暮らしやなじみの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でのご本人様の話や行動など記録に記載し、職員間での情報共有できるようにしている。また、今までにない行動や新たなサービス提供については記録と共に口頭でも情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、スタッフにそれぞれこれからのしたい事、どうなりたいか等聴きとったことを基に、日々のケアの中からも課題などの把握に努め、随時ケアの見直しに努めている。	介護計画は、入居時に暫定プランを立て、何もなければ3ヶ月で見直している。1週間1回に短期目標を見直し、状態に変化があった時にも、随時見直すようにしている。ケアマネを中心にプランを作成し、かかりつけ医の意見や担当職員の情報も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記載するとともに申し送りでの情報共有、ケアカンファレンスで毎月の反省や今後の取り組みについて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間や場所、ルーティーンにとらわれず、個々にニーズに合わせてサービスできるように、SNSを活用しての面会対応や、毎週移動パン屋に来ていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週木曜日に地域の移動パン屋に来ていただき、購入を楽しみにされ、翌日朝食の楽しみになっている。また散歩時には地域の方と交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医を持ち、訪問診療の際には、ご利用者様の様子を報告・相談している。また、体調不良などあればすぐに連絡し適切な医療を受けられるように支援している。	殆どの利用者が、かかりつけ医に転医している。かかりつけ医は24時間対応で、緊急時には訪問看護を介して連絡が行き届いている。歯科は利用者の状況に応じて訪問し、歯科衛生士による口腔ケアの指導もある。他科への診察時には、基本的には職員が付き添い、家族へ診察内容の報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月水金には訪問看護師に来てもらっている。訪問時には状態の報告を行っている。また訪問時以外にもSNSを活用し状態の報告や相談、緊急時には電話にて指示を仰ぎ、適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談室と随時連絡を取り様子の把握に努めている。退院に向け情報をいただいたり、施設側の要望を伝え円滑な支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には意向の確認をしている。また6か月に1回ケアプラン更新時にも面談を行い、その都度意向の確認や看取りのについても意見交換を行い、職員間での情報共有をし支援している。	看取りはして、数名の看取りを行った。重度化した時には、ケアプランの見直しの際に、家族に説明・確認をしている。看取りのカンファレンスを行うことで、職員の心のケアに繋がっている。デスカンファレンスでは、看取りへの段階に応じて、潤滑な対応ができるように意見を出し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やプリント配布、掲示など実施、口頭などでも情報共有や指導など行い、実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルの作成、備蓄の準備、年二回の消防訓練を行っている。また地域にも施設内状況や消防訓練の様子なども資料にて発信している。	避難訓練は年2回、火災と水害を昼夜想定で実施した。ハザードマップ、避難方法は玄関に掲示し、連絡網は事務所に掲示している。電話とラインの両方を活用している。備蓄はご飯、水、レトルト食品を3日分、衛生品、応急処置用品、カセットコンロも保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の特徴を捉え1人1人の人格を尊重した声掛けを心掛けている。またプライバシーを大切にす声掛けやケアを行っている。	呼称は基本は苗字に「さん」付け。家族の要望であだ名で呼んでいる方もいる。居室に入る際には、ノックと声掛けをしている。排泄失敗時には、さりげない声掛けをして周囲にわからないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけわかりやすい選択肢があるよう声掛け行ったりご希望を伺って自己決定できるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせケアを行うようにしており、表現が困難な方にも無理強いせず、穏やかにゆっくりと過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選べる方には入浴時服を選んでいただいております。衣服の選択が難しい方には、更衣時その方らしいコーディネートを考え髪を整えるなど、喜ばれる支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大きな食卓で一緒に食べられる方や個別テーブルで食べられる方など、その方に合った食事スタイルで召し上がられている。また1人1人が残存機能を活かせるように食事形態や道具、声掛けなど配慮して提供している。	食事は食材を取り寄せて手作りしている。夕食は冷凍食品を活用して、職員の負担を減らすようにしている。おやつはホットケーキやミニどら焼き、五平餅を利用者と一緒に行ったこともある。月1回利用者の希望を聞いての、お楽しみ昼食会が好評で、居酒屋・カフェ風の演出を用いることで、メニューに工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	まず1人1人の健康状態を職員は把握した上でその日の体調や食べる量に応じて提供する量や食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に応じたスポンジブラシや歯ブラシなどで口腔ケアを行っている。出来るだけ自分で出来るよう声掛けや物の配置など工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握した上で、声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄失敗時には、さりげなく声掛けをして利用者の羞恥心に配慮している。排泄記録はカルテに記録にし、紙おむつから排便コントロールして、布おむつになった利用者もいる。トイレを嫌がる人には、言葉がけを工夫して誘うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	随時牛乳や水分の提供、ホール歩行やペダル漕ぎ、階段を使って2階に上がるなどの運動も取り組んでいる。また、必要に応じて下剤の内服も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、本人が好まれなかったり体調変化がある時には曜日を変えたり、タイミングをずらすなど臨機応変に対応している。	入浴は週3回。嫌がる人には言葉がけに工夫を凝らし、「今なら私が手伝えるよ」と、利用者が行きたくなくなるよう誘っている。利用者が嫌がった際に、泣き落としの演技をして、入浴して頂いたこともある。入浴剤で気分を味わって頂いたり、職員との会話が弾んだりして、リラックスできる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のご様子や心身の状態に応じて居室で休んでいただいたり、ソファーに座っていただくなど支援している。また、居室の採光・湿度・温度・寝具の快適さにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からの説明や処方箋を参考に理解に努めている。また内服薬の変更時には症状の変化についても注意深く観察し事故の無いよう声掛け確認しながら服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力に合わせて楽しみながら役割をして頂けるように工夫している。また、その方に合わせたおやつ提供やレクリエーション、趣味活動も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	どこに行きたいか、何をしたいのか応えることが可能な方には伺って外出できるよう支援している。また答えることが難しい方でも、過去の話やご家族様からの話を参考に楽しめる外出先を考え実行できるように支援している。	公園にお花見に行ったり、近隣のバラを育てている方を訪問したりしたこともある。利用者の意向を汲み取り、家までドライブをしたり、信仰しているお寺に手を合わせたりしたこともある。近隣の方とは顔馴染みの関係となっていて、挨拶や話をして交流を深めるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、施設内では各自での金銭の管理はしてもらっておらず、ご家族や後見人により管理してもらっているが、本人様よりご希望あれば、施設にて立替物品の購入や買い物の同行行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用され、自ら電話をかけられる方もいる。また、いつでも連絡しても良い関係とSNSを活用しての手段もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や置物を工夫して、季節感を感じられるよう心掛け、皆さんが心地よく過ごせるような空間にしている。	ホールの壁面には季節や誕生日を祝う飾り付けがしてある。利用者の習字の作品や塗り絵も心を和ませている。行事の際の写真を掲示して、利用者がそれを見て思い出して、嬉しそうに話することもある。生花が常に活けてあり、癒しの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや机の利用を最大限に活かして、ご利用者様同士で談笑したり、1人になれるような場所を工夫している。また気の合わないご利用者様同士は距離をとるなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや置物、ぬいぐるみ等を置き、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、光・湿度・温度などにも配慮し好きなカレンダーや写真を飾っている。	エアコン、ベッド、クローゼットが備え付け。利用者の好きな歌手のポスターがいっぱい貼ってあり、利用者の心の支えの一つとなっている。家族や孫の写真が貼ってあり、ホッとするくつろぎの場となっている。仏壇に毎日、手を合わせている方や服を自分で選んで着る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレには分かりやすい表示をしている。また歩行の為の手すりや動線には余計なものは置かないなど環境整備もしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	株式会社アイリーフ		
事業所名	グループホーム アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 17 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な活動を通じて他者から頼られ、自分らしい生活を続けられる場の提供を目指しています。また、看取りまで対応できる事業所として、安心して過ごせる場所が最期を迎えられる場所であるよう、かかりつけ医、訪問看護師と連携を図っています。これまで通りのやり方を疑う目を持ち、より良い関わり方はないか日々模索し、入居者、家族、スタッフ間でコミュニケーションを取りながら、支援しています。LINE公式アカウントを開設し、日々の様子の配信やオンライン面会に対応しています。外国人技能実習生を受け入れ、人間的に余裕をもって落ち着いたケアが実践できるように配慮しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105235-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の小さな花びらが寄り添い、利用者の笑顔と重なり合って大輪の花を咲かせている。体調不良が起こった利用者に対して、家族との交りが深くなるようSNSを活用して、知らせ、知らないことを知ることから健康状態保持をし、心身ともに満足できる体制を築いている。お誕生日にご自宅までのドライブを計画したこともあり、ご自宅の近くのお寺に手を合わせに行ったら、ご住職が利用者を覚えていて昔話に花を添えた。外食を企画して、お寿司を食べて施設の垣根を越えて喜んで頂いたなど、職員が利用者にな得できる企画を豊富に打ち出している。日々の仕事でも、キャッキョッと笑う職員が多く、施設も明るく和んでいて、時に職員も気分的にへこたる時、ワイワイと愉しく仕事をするに徹し、職員間でカバーし合いながら盛り上げている。管理者も常に笑顔を引き出し、愉しく安全な職場を目指している。地域に対しても早くコロナ禍を脱皮したいという思いから、家族会やぜんざいを振舞う場を設けた。たまたま通りすがりの方が、ふらふらと寄ったことも活気に繋がった。花見の時に利用者の手には花びらを飾したら「大事なお花だから」とハンケチに大切に包み込んで、持ち帰ったこともあった。地域のごみ拾いやイキイキサロンの参加、公民館の活用、スーパー、ドライブスルーなどなどの企画力もたっぷり。そんな職員自身がやりたいことを楽しみながら、家族と利用者を巻き込んでいる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念や事業所理念はホールに見えるところに掲示している。定期的にオンラインでの全体研修に全員が参加し共有、実践に努めている。また、地域の中での役割や自分達が出来るとは何か、話し合う場を設けている。	理念は事務所とホールに掲示していて、和気藹々とした家族のような関係が築けるように意識するだけでなく、地域における自分たちの在り方を理念に照らし合わせて、ケアに臨んでいる。クレドカードを作り職員の行動指針の提示もしている。	理念を更にわかりやすく掲示する工夫をしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や近隣の畑作業中の交流は行えている。行事としては、感染者減少のタイミングでぜんざいを振る舞うなど、できる対策を講じながら交流できる場を設けている。	町内会には加入している。近隣の畑で採れた野菜を頂いたり、公園で少年野球のバーベキューに参加したりしたこともある。散歩の時には、ゴミ拾いをして、地域美化に協力している。コロナ前には、いきいきサロンにも参加していた。	地域の方との交流をさらに深めてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面会議になり意見の交換は難しくなっている。回覧板を活用した情報発信は継続している。インスタやLINEなどのSNSの活用で取り組みは広く広報している。伴走型支援事業所認定を目標に掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度書面会議を継続している。ヒヤリハット等の報告を詳細に記載するなど指摘に応じて必要な情報を載せるようにしている。要望は施設内で共有し改善について検討出来ている。	現在は書面にて開催し、推進会議のメンバーには郵送で渡している。公式ラインを導入したことで、会議に参加できなかった方へも情報提供ができるようになり、全員が把握できるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度書面会議にて情報を送付しているが、出来る限り手渡しで担当者に会い情報を共有しており、運営に関して書面で情報をいただいたり、感染症管理については直接お電話でご指導いただいている。	管理者が窓口となっている。直接、顔を合わせる関係が継続できている。電話でやり取りを行う場合もあり、頂いた情報は日々の介護に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員を設置し、身体拘束廃止に関する指針を作成している。また、定期的に施設内研修を行い、スピーチロックなど、グレーなケースも自己覚知していくよう努めている。	身体拘束はしておらず、委員会は3ヶ月に1回開催している。ケアカンファレンスや申し送りの際に、一人ひとりの成功事例を報告する場を設けていて、共有実践することで(グットプラクティス)ケアの見直しに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行う。カンファレンスでは、言葉遣いや行動などを見直し、虐待のみならず不適切ケアの防止に努めている。また、職場環境に問題はないか、心理面ではどうか、など、あらゆる面での考察も視野に入れて互いに話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を活用した入居事例を通じて研修の際により理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに対する指針、利用料金、リスク等について話し合いを行い理解に努めている。また随時、不安や疑問を伺うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・ケアプラン更新の面会、アンケートの実施、SNSの活用により、日常的に情報のやり取りが行えるように機会整備に努めている。いただいた意見はすぐに共有し実践に結び付けられるよう検討している。	ヒヤリハットの報告をしていたが、対処の具体例を示して欲しいとの意見を頂いた。職員が利用者のいないと思うものを家族に返却しようとした際に、家族から、「これは昔、大切にしていた物だから」と言われ戻されたことがあった。公式ラインを活用することで、より意見を聴取しやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回合同カンファレンス・ケアカンファレンスを行い、意見交換や提案を聞く機会を設けている。個人面談を年2回行い個別にも意見を集約している。それ以外にも、職員からの相談をうけ随時対応している。	体調の不安や新しいシフトの時に、管理者は職員に声をかけるように配慮している。職員が自らやりたいことに取り組むという意識が高く、意見が頻繁に出て、実践できる環境となっている。利用者の靴が滑りやすいことに気付いた職員が、新しい靴に買い替えたこともある。スライディングボードを導入したことで、職員の腰痛対策となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得資格に応じた手当を支給している。残業時間が短縮するようシフト作成方法を工夫している。スキルアップのための研修参加の呼びかけ、研修費用の補助をしており職員の努力により取得できた加算等、成果を処遇の改善に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修について定期的に実施。実施してほしい内容についても意見集約している。外部研修への参加も実施しケアの内容を省すめる機会となっている。外部研修で得た内容は施設内でアウトプットしてもらい、職員の質の向上にも一助となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での交流がある。現在は中断しているが、連携事業所と共同の研修を企画している。他グループホームの管理者との意見交換機会も再開していく予定。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に施設で出来ること、リスク含めてご説明している。居室担当者が信頼関係作りの窓口となりしっかり情報収集と共有を行い、ご本人が困っていることに寄り添えるよう、価値観や生活歴を確認し、その人らしく過ごせる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し、ご本人にどう過ごしていただきたいか要望を確認している。施設の考えるご家族への要望も伝え、ご理解いただいたうえで協力体制含めより良い関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供する事業所サービスの特徴や出来ること出来ないことをお伝えし、ご本人の状況や困られていること、希望を確認している。時期が見合うか、他事業所との比較など本人、家族が納得して選択できるよう努めている。また、対応できる地域資源の模索もすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることの発見に努め出来ることはしていただいている。また、一緒にサポートしている。場を共有する取り組みを工夫し、相互の関係構築を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設や施設職員は本人の家族の代わりになりえないことを最初に説明し、持続的な関わりの必要性をご理解いただいている。情報を提供したり、交流手段を用意し絆の継続に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからのお知り合いにも関わっていただけるよう柔軟に対応している。Key personだけでなく希望されるご家族に対してもSNSを通じて情報を提供できるようにしている。	リビングの席が馴染みとなり、利用者同士が話に花を咲かせている。家族とは、感染予防をした上で、会うことが出来ている。昔馴染みの方とも会うことができ、昔を思い出しながら会話を楽しむ様子がみられた。家族と選挙の投票に行く方もいて、かかりつけ医の訪問を楽しみにしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のペースに合わせた生活を選択できるように配慮しつつ、共有できる場の提供、取り組みの工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されても施設と関わることを要望いただけるケースもあり、適宜情報提供し交流していただけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話、表情の変化を汲み取り、アセスメントを通して本人の望む姿に近づけるように心がけている。転倒リスクの高い入居者の部屋は行動制限にならない工夫をしながら安全な環境設定を行っている。	音楽が好きな方へは、好きな歌手の曲やDVDを流し、鼻歌を歌っている。口腔ケアが好きな方には、心ゆくまで掃除をして頂くこともある。家族から歩かせてほしいとの要望があり、実践している。出た意見は、介護記録を通して、情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の交流の中から情報を聞き出している。フェイスシートやご家族からの情報と、本人から得られる情報を比較し、なじみの暮らし方や要望をイメージができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の様子や変化、訪問診療の内容などを申し送りノートや介護記録に記録し多角的にとらえ、情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング以外にも日々のケアの中や申し送りの際にニーズを把握し随時ケアの見直しを行っている。	介護計画は、入居時に暫定プランを立て、何もなければ3ヶ月で見直している。1週間1回に短期目標を見直し、状態に変化があった時にも、随時見直すようにしている。ケアマネを中心にプランを作成し、かかりつけ医の意見や担当職員の情報も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録で情報共有を行う。いつもと違う様子や変更したケアの反応を記録、フロアリーダーへ報告している。カンファの際には参加スタッフで情報共有し計画の見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	SNSを活用した面会に対応。また往診ではなく専門外来受診への同行も対応。一時帰宅に向けて可能な限り身体機能を向上するメニューの体操をして実現できたことは職員・家族・本人にとって良い刺激となった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動パン屋を誘致したことで本人の選択を支援できるようになった。地域交流の場としての活用も期待。散歩時には火箸でゴミ拾いしたりあいさつや世間話をし交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来受診、訪問診療の選択は個々人の思いに添って対応している。同行した場合は結果を随時報告している。訪問診療に来られる医療機関とは随時連携とれるように関係構築している。また、薬に関しての相談も薬剤師と密に連絡を取り合っている。	殆どの利用者が、かかりつけ医に転医している。かかりつけ医は24時間対応で、緊急時には訪問看護を介して連絡が行き届いている。歯科は利用者の状況に応じて訪問し、歯科衛生士による口腔ケアの指導もある。他科への診察時には、基本的には職員が付き添い、家族へ診察内容の報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化には、看護師へ報告・連絡・相談を行い、医療と介護が連携している。異常が発生した場合は、24時間対応で電話・SNS連絡を行い、適切な対応が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	相談室と随時連絡を取り様子の把握に努めている。退院に向け情報をいただいたり、ご家族や施設側の要望を伝え円滑な支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向の確認をしている。多様な考え方に対応できるよう施設側の意向をお伝えしている。定期的にご家族の意向変化がないか聴きとるよう心がけている。	看取りはして、数名の看取りを行った。重度化した時には、ケアプランの見直しの際に、家族に説明・確認をしている。看取りのカンファレンスを行うことで、職員の心のケアに繋がっている。デスカンファレンスでは、看取りへの段階に応じて、潤滑な対応ができるように意見を出し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についての勉強会を施設内で定期的に行っている。シュミレーションをしたり動画研修を取り入れてはいるが、訓練としてはまだ不十分で実際の場面で困る場面も見受けられる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に避難マニュアルを掲示し、年2回避難訓練を行っている。水や食料などの備蓄も準備している。地域の防災担当の方と共同で訓練も視野に入れている。	避難訓練は年2回、火災と水害を昼夜想定で実施した。ハザードマップ、避難方法は玄関に掲示し、連絡網は事務所に掲示している。電話とラインの両方を活用している。備蓄はご飯、水、レトルト食品を3日分、衛生品、応急処置用品、カセットコンロも保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人が信頼関係を築きながらその人に合った距離感、声掛けを行うよう心掛けている。慣れが出て急かすような声が出ることもあり、職員間で注意をするようにしている。	呼称は基本は苗字に「さん」付け。家族の要望であだ名で呼んでいる方もいる。居室に入る際には、ノックと声掛けをしている。排泄失敗時には、さりげない声掛けをして周囲にわからないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制や抑制にならないように配慮して声掛けを行っている。わかりやすく選択肢を提示し自己決定できる環境設定に努めている。アセスメントの中でもご本人の意向を伺い、日常の中で反映させていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「何がしたいか」確認するようにしている。希望にはできるだけ沿い納得が得られるように努めている。その方の状態に応じて起床時間や食事時間を流動的に変える事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	筆筒の引き出しを整理しいつも同じような服を着ることがないようにしている。好みを把握し天候にも配慮して着替えていただいている。女性には時折職員がメイクをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい大きさ、硬さ、形態に配慮し、食を楽しむように配慮している。役割を分け入居者が積極的に手伝ってもらえるようにしている。月に1回お楽しみ昼食と言うイベントで入居者様のリクエストメニューを聞いている。	食事は食材を取り寄せて手作りしている。夕食は冷凍食品を活用して、職員の負担を減らすようにしている。おやつはホットケーキやミニどら焼き、五平餅を利用者と一緒に行ったこともある。月1回利用者の希望を聞いての、お楽しみ昼食会が好評で、居酒屋・カフェ風の演出を用いることで、メニューに工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の活動量、排泄状況や体調、体重増減などを考慮して提供する量やタイミングを工夫している。また、どうすれば摂取が進むかアイデアを出し合い工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立支援を念頭に利用者に応じた口腔ケアを行っている。歯科の指導を受けながら、効果的な口腔状態の維持、清潔の保持について取り組めるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、その人に応じた声掛けやケアの方法を検討している。羞恥心にも配慮しながらトイレで排泄することを大切に誘導しコントロールできるように心がけている。	排泄失敗時には、さりげなく声掛けをして利用者の羞恥心に配慮している。排泄記録はカルテに記録にし、紙おむつから排便コントロールして、布おむつになった利用者もいる。トイレを嫌がる人には、言葉がけを工夫して誘うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり工夫している。水分・食事管理に加え、運動を心掛けている。個々に合わせて主治医と相談しながら内服の調整、訪問看護師の協力のもと浣腸など対応いただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思決定や伝達が難しい方への清潔配慮、入浴を楽しめる配慮を行っている。個々の要望に応じてタイミングを変更するなど対応している。気分転換になれば、と入浴剤を使っている。	入浴は週3回。嫌がる人には言葉がけに工夫を凝らし、「今なら私が手伝えるよ」と、利用者が行きたくなくなるよう誘っている。利用者が嫌がった際に、泣き落としの演技をして、入浴して頂いたこともある。入浴剤で気分を味わって頂いたり、職員との会話が弾んだりして、リラックスできる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度、光など居室の環境整備に努めている。日中に活動量を落としすぎないように配慮している。また、いつでも休息が出来るようホールにソファを設置しているなど、状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の理解は薬剤師からの説明、資料を参考に情報共有している。内服薬の変更時には特に前後の様子の変化に注意するようにしている。服薬ミスがないよう、チェック体制の見直しもやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	美容師だった方にはイベント時に浴衣の着付けをお願いしたり、調理がお好きな方にはお寿司を作っていたり、利用者ごとの強みを活かした活動の提供や役割の維持を心掛けている。刺激が一定とならないよう限られた選択肢の中で工夫して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の意向で外出する際は注意事項を助言している。気候に合わせて散歩したり、近くの公園に行き子供たちと触れ合う事もある。	公園にお花見に行ったり、近隣のバラを育てている方を訪問したりしたこともある。利用者の意向を汲み取り、家までドライブをしたり、信仰しているお寺に手を合わせたりしたこともある。近隣の方とは顔馴染みの関係となっていて、挨拶や話をして交流を深めるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解、本人の安心感の為、少額の現金を持っていら方もいるが、概ね家族様や後見人が管理。本人が当たり前に社会と触れ、金銭を使うことについての大切さの理解について促していく必要がある。買い物に同行し楽しんでもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お知り合いやご家族からの電話の取り次ぎは行っている。SNSを使用したWEB面会にも対応している。手紙は施設宛に届くが、開封せずにご本人にお渡しし、お返事も書いて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙の工夫や生花を飾り、季節感を感じられ居心地の良い空間になるよう心掛けている。雑多で集中できなくならないよう片付けや整理にも配慮している。生活環境の整備に入居者も参加している。	ホールの壁面には季節や誕生日を祝う飾り付けがしてある。利用者の習字の作品や塗り絵も心を和ませている。行事の際の写真を掲示して、利用者がそれを見て思い出して、嬉しそうに話することもある。生花が常に活けてあり、癒しの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席や共用のソファなども固定的な使用場所にし、個々が自分の居場所を認識し気兼ねなく使用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て利用者の使い慣れたものや写真等を用意していただき、居心地よく過ごせるように努めている。	エアコン、ベッド、クローゼットが備え付け。利用者の好きな歌手のポスターがいっぱい貼ってあり、利用者の心の支えの一つとなっている。家族や孫の写真が貼ってあり、ホッとするとつろぎの場となっている。仏壇に毎日、手を合わせている方や服を自分で選んで着る方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレだとすぐ分かる表示や声掛け、またふらついてもすぐにつかまって自分である程度転倒が防止できるよう椅子やテーブルの配置を考え動線を確認し、利用者が混乱しないように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない